

歯医者で働く私の、『マウスピース矯正生活』

～事務長が患者になって気づいたこと～（アライナー 25 / 36）

曇天迫る

勤務医との面談中のこと。隣に座る院長が、勤務医の成長を促すように話しました。

「事務長のアライナー、これからまだまだ続くからさ。

IPR（歯と歯の間を削る処置）機会があれば、経験含めてやってあげなよ」

...ん？ 私のアライナー、全36枚中の今「25枚目」なんですけど...？

おや？

ま・だ・ま・だ？？

目の当たりにしないように、そして近い将来どこかで聞く羽目になることは薄っすらと感じ取ってはいたものの。あまりにもしれっと、その単語が耳に入ってきました。

どうやら、残り10枚ちょっとで終わりは迎えなさそうです。

まだ確定のお告げをされたわけではありませんが、「当初の予定通り36枚で終わる」なんていうのは泡沫の期待。

延長戦である「リファインメント（追加アライナー）」の足音は、もうすぐそこまで来ているのかもしれません。



動じない心

ただ、こんな想定外？なことを言われても、微動だにしませんでした。（いや、想定内だったからなのかもしれないけれど）

「もしかしたら、あと10枚ちょっとのことを『まだまだ』と表現しているだけかもしれない」と、期待するのにも烏滸がましいくらい、絶対に違うと分かっているのに🙄

なぜ微動だにしなかったのか。私見を綴ると、

心に余白を保持していれば、大抵の事には寛容になれる。

心に余白を保持していれば、想像力や創造力が豊かになる。

心に余白を保持していれば、いざという時にすぐ行動が可能になる。

それなら、意図的にその「余白」を創り出せばいい。



私は、人事や経理といった事務管理や、業務のDX化など、パソコンでテキストデータやシステムを扱うことが多い職種にいます。だからこそ、この時代のテクノロジーの恩恵を受けやすい立場であり、それらをフル活用して、自身への標語として「バッファの創出」を掲げています。

あえて余白を生み出すこと。

それが、新しい付加価値を生み出す源泉になると思っているから。



vs 「常に全力」

意見に対して「それは違うね」と否定することもあるでしょう。

私から言わせてもらおうと、それは「間違っている」のではなくて、単に「考えが異なる」「前提が合わない」というだけの次元の話じゃないかなって。

余白を持たず「常に全力」でいることは、一見素晴らしいように思えますが、いざという時の変化や想定外の事態に対処するバッファを持ち合わせられるでしょうか。

イライラすることもあるでしょう。

ピリつかせることもあるでしょう。

対応が遅くなり、または失念することもあるでしょう。

物事の捉え方は、本当に多様性があって面白い。なんだか最近は、こういうディベートをするのが楽しい。

マウスピース矯正の延長戦も、「意図的な余白」とともに。

